

第21回 令和7年5月15日（木）

「昨日留学希望の方対象のガイダンスを見に行きました。」

たくさんの生徒が真剣に説明を聞きながら、質問をしていました。みなさんが社会に出るころにはますます世界は近くなります。とても良いことだと感じました。

自分を成長させるためには視座を変えることが一番です。いままでの固定観念を覆すことでまったく違う風景が広がって、当たり前と思っていたことにも課題が見えてきます。

富士山の頂上にいても山の形はわかりませんが、遠くから見るとその美しさがわかります。留学することで日本の問題点だけでなく、日本の良さや美しさもわかると思います。

いまからおおよそ160年前、みなさんの暮らすこの神奈川県に黒船がやってきました。外国人と条約を結ぶときには日本の港を守るために「ここが神奈川の港です」と嘘をついて人里離れた小さな漁村で条約を結びました。その村の名前が「横浜」です。

黒船を見て日本人は大きな刺激を受けました。そして250年続いた徳川幕府の政治が転換することにつながったわけです。それだけ視座を変えるということは大きな効果があります。

私も海外に行く機会がありますが、日本に帰ると道の電柱にある日本語の看板や標識に目が行きます。もちろん日本語で書かれているわけですが、別の言語で書かれた標識に見慣れているので少し違和感があります。

そこで感じるのは住所の表記やお医者さんの看板、至る所にある一時停車や「止まれ」とペイントされた道路、そして横断歩道や歩道橋の多さです。

実は日本のインフラって本当に丁寧に作られていて親切だし、日本人のホスピタリティーを改めて確認することができます。

反対に歩いている人々はお年寄りや小さい子がいる母親など、少し困っている人がいても無関心な人が多い気がします。外国ではこのような人への声掛けがもう少し自然にできているような気がします。

ぜひみなさんも視座を変えて、日常風景の中に新しい発見をしてみてください。これからの生き方に大きな変化をもたらす経験になると思います。